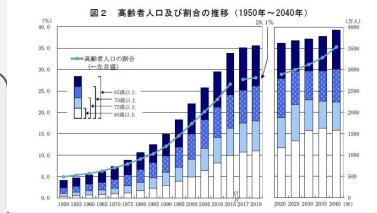


# 校舎内におけるバリアフリーの効果

## 宮城県仙台第三高等学校E-9班

### 1. 目的と背景

高齢化が進む日本では身体障がい者が増加している。だからこそ、バリアフリーの需要が高まっている。



身体障害者手帳所持者数、年齢階級別(年次推移)

	20~29歳	65~69歳	70歳以上	総数
平成28年	74	576	2537	4287
平成23年	57	439	2216	3864
対前年比	129.8%	131.2%	114.5%	110.9%



学校内の問題点を明らかにし、障がい者にとってもより使いやすい校舎をつくる

平成23年から28年の間で視覚障がい者の総数が増えている。その内訳として高齢者の視覚障がい者の割合が半数以上を占めている。

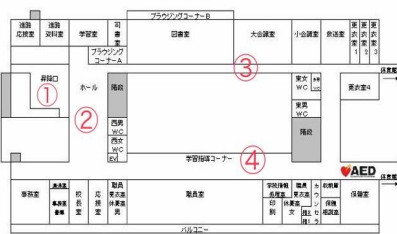
### 2. 方法

視覚障がい者の見え方、感じ方を知るために視覚障がい者の見え方を体験出来るゴーグル、目隠し、白杖を使って実際に校舎内を歩く。



### 3. 結果・考察

#### 三高校舎配置図【2階】



下駄箱・傘立ての場所分かる？

自分のいる場所分かる？

安心して歩ける？

教室の区別はできる？

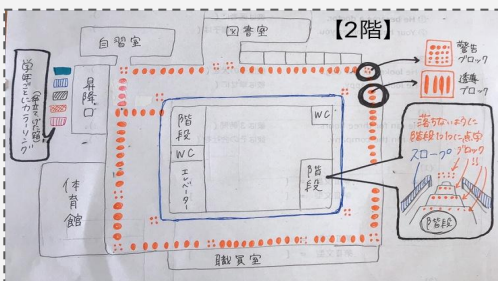
曲がり角の工夫は？

#### 【3階】



- ① 傘立てや下駄箱が見えづらい (自分がどの学年なのか等) ⇒ 学年やクラスごとにカラーリング
- ② ホールは広くて自分がどこにいるかわからない ⇒ 階段まで点字表示をつける
- ③ ②と同様点字表示の必要性。
- ④ 廊下に物があると怖い ⇒ 通り道に物を置かない

- ⑤ 表示が見えにくい、また全盲の人は何の教室か分からない ⇒ 字の拡大、点字表示の必要性
- ⑥ 曲がり角での事故 ⇒ 点字ブロックで注意して曲がる



新しく設計するとしたら...

- ・校舎の形を正方形にする ⇒ 歩く距離が短くなる
- ・校舎を短くした分階段数を5階までにする ⇒ 視覚障がい者などにはエレベーターで移動してもらえらるから負担は小さい
- ・点字ブロックとスロープの設置 ⇒ 曲がり角には警告ブロック、進行方向には誘導ブロックをし、廊下での歩行の安全を確保する
- ・体育館への移動 ⇒ エレベーターを降りたら目の前に体育館を置くことで負担を減らす

### まとめ・結論

三高校舎内での検証の結果、健常者向けの設備に比べ、カラーリングへの配慮や点字ブロックの設置等の特に視覚障がい者向けの設備の不足が散見された。これらの問題点を解消できれば、仙台三高はより、様々な人にとって使いやすい施設にすることができると思われる。

### 参考文献

- ・平成28年生活のしづらさに関する調査全国在宅障がい児・者等実態調査)結果2018年4月9日厚生労働省社会・援護局障がい保健福祉部 [https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/seikatsu\\_chousa\\_c\\_h28.pdf](https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/seikatsu_chousa_c_h28.pdf)
- ・仙台三高の校舎配置図ホームページより) <https://sengan.myswan.ed.jp/allocation>
- ・水戸駅における視覚障害者誘導用ブロックの敷設状況とその課題小田哲平 田原敬勝二博亮2018年1月30日 <http://hdl.handle.net/10109/13466>